

令和6年度 第1回 宗像市健康づくり推進協議会 議事録

日時 : 令和6年7月16日(火) 19:00~21:09

場所 : 宗像市役所 本館3階第2委員会室

出席委員: 平尾委員、椛田委員、伊東委員、富松委員、吉田委員、中谷委員、世戸口委員、緒方委員、石松委員、高崎委員、野中委員、村山委員、小宮委員

事務局: 【健康福祉部】林田部長、【子ども家庭センター】有吉課長、【学校管理課】椎葉参事、【健康課】安川課長、山本主幹、倉富係長、荒牧企画主査、竹村主任保健師、椎葉企画主査

次第

- 1 開会挨拶
- 2 新任委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 議事・報告事項
 - (1) 令和5年度の健康づくり・食育の取組状況および今後の取り組みについて
 - (2) 健康むなかた21及び健康むなかた食育プランについて
 - 第2次計画最終評価のための市民アンケート調査(案)について
 - 第3次宗像市総合計画での健康むなかた21・健康むなかた食育プランイメージ
 - 今後の予定について
 - (3) 自殺対策推進計画について
 - 自殺対策推進計画進捗について
 - 宗像市自殺対策推進計画(第Ⅱ期)策定の概要について
 - (4) 健康づくり関連行事について
- 5 質疑応答・その他
- 6 閉会挨拶

議事

- (1) 令和5年度の健康づくり・食育の取組状況および今後の取り組みについて
(事務局より資料2を説明後)

会長

- ・資料2の作成のため、各団体からもご協力いただき、有り難い。全体を通して質疑応答の時間としたい。何かお気づきの点があれば、ご発言をお願いしたいが、まずは資料を読んでいただく時間を取りたい。
- ・追加で説明などがあれば、お願いしたい。健康むなかた21と健康むなかた食育プランの取り組みの2つがあるが、そのどちらでも結構である。

委員

- ・多岐にわたって色々と取組が実施されていることに驚いている。5頁に文化スポーツ課が担当した、コーディネーショントレーニングの取組を行った記載がある。私は、わざわざ

佐伯市まで資格を取りに行った経験がある。実績として昨年度開催したということだが、スポーツ推進委員には、開催するという話はなかった。記載するならば、開催した結果を示すべきだと思う。

- ・以前は「ロコモティブシンドローム」、現在は「フレイル」という言葉について普及啓発、認知度の向上が進められているが、いずれも横文字の言葉がそのまま使われている。地区の役員会でフレイル予防の教室を企画したいという説明があった時に、「フレイルとは何か」と聞いたところ、担当者は答えられなかった。一般市民は、まだ言葉の意味までは理解していない状況である。英語になることは仕方がないことだが、どのように市民に知らせていくかを考えているか。わかりやすく市民に伝える手立てがあれば教えてほしい。

事務局

- ・健康日本21でもロコモティブシンドロームから、高齢化が進む中でフレイルと言う言葉が使われるようになった。フレイルとはどういう状態か、予防する方法を知ってもらうことに力を入れている。75歳以上を対象に、健康増進の保健事業と介護予防事業を一体となって取り組むようになった。令和4年頃から、市の広報記事や運動教室などでお知らせをし、周知している。また、健康づくりリーダー養成講座受講者に伝えている。
- ・ロコモティブシンドロームで言われる身体的機能低下から衰える身体的フレイル、口の機能低下や栄養状態から衰える栄養面のフレイル、社会参加が少なくなることが原因の社会的フレイルという3つの状態がある。フレイルとは、元気な状態に戻れる前段階であるため、健康課として周知を行っている。各団体においても、知りたい、勉強したいということであれば出向かせてもらいたい。

委員

- ・広報誌が2回から1回に減り、より市民は読まなくなった。広報誌に1頁で紹介して目立つようにするなど、もう少し啓発の仕方を考えてもらいたい。

会長

- ・フレイルなど、国から言葉が下りてきて、認知・定着するまで時間はかかる。私も以前は言葉の意味を知らなかった。どのように啓蒙していくかについて問題提起をしていただき、有り難い。
- ・私も事前に資料をいただき、目を通していているところだが、日本赤十字九州国際看護大学の方で12頁にいろいろな取組をされている。⑮～⑰の取組は、どのような効果が上がっているか。

委員

- ・⑮に関しては、学生が赤間地区のコミュニティセンターで健康づくり教室に参加し、地域住民と交流を行った。学生は普段授業で学習をしているが、実際の活動を見学する機会がないことや、病院の実習に行くが、元気な高齢者を見ることはないため、退院後高齢者が地域に戻ったときにどのように交流をしているのか、どのような場所で活動をしているかを知るきっかけづくりになる。
- ・⑯、⑰は大学内の地域連携センターが企画し、学園祭以外に、大学周辺の宗像リサーチパーク協議会と共同で文化祭を開催し、健康チェックなどを行い交流の機会を設けている。

測定後、体の気になる点などを看護の学びを活かして学生が健康に関する講話をしている。

- ・⑩はセンターで公開講座を実施しており、今年度も住民のニーズに応じて健康をサポートする機会を設けている。卒業研究で健康に興味を持っている学生がおり、子宮がん検診のクーポン配布が受診に結びつかないことや、大学生になり歯科検診を受けていないことに対し検診を受ける機会はあるが、行動に結びついていない実情について紹介をした。今年度から歯科節目健診が追加されていることも講義を通して学生に周知をさせていきたいと考えている。

委員

- ・1頁目の③子宮頸がん予防接種について、ワクチンの接種者と未接種者を市は把握しているのか。

事務局

- ・子宮頸がんの予防接種は一定期間積極的勧奨がされていない期間があったが、安全性が確認されたため、今年度までキャッチアップ接種を行っている。未受診者すべてに通知を行い、希望者に接種を行った。接種歴は市で管理しているため、未接種者に対して通知を行っている。転出入の関係で把握しきれていないところもあり、ズレるところもある。

委員

- ・実際の成果はどれほどか。

事務局

- ・正確な数字は本日準備していないが、接種率は15%前後であると思う。

会長

- ・5頁③についてお尋ねするが、縦割り遊びの取組とは、どのような内容か。

委員

- ・おそらく、少人数の学校ではグループに分けて1年生から6年生までを1つのグループにし、1年間組んで掃除をする、遊ぶなど取組を各学校で実施されている。

会長

- ・小規模校のみの取り組みということか。

委員

- ・中学生では体育祭で縦割りをし、1～3年を1つのグループに分けて、競技を行っている。日頃の生活や秋の合唱コンクールなども縦割りで実施し、大きな学校では250名を1つのグループで活動をする。

会長

- ・縦割り遊びとあったので、自然と縦割りで遊ぶ仕組みがあるのかと思った。

委員

- ・異学年で仲の良い友達と遊ぶことはもちろんあるが、縦割りのグループを学校の方で編成しての取り組みと理解している。

会長

- ・食育の方で、17頁に魚捌き教室ということで、魚食に触れる機会を設けられている。⑨に各学校の取組が記載されているが、具体的に説明をお願いしたい。

委員

- ・食進会の方に講師をしていただき、市内の漁協の協力もあり、魚捌き教室を行っている。魚を捌き、レシピは生徒が各自で考えるという流れで家庭科の授業として行っている。

委員

- ・今年も実施する予定である。魚の3枚おろしを覚えてもらったらよいと思って、私どもも楽しんで教えている。

会長

- ・中学生が魚捌きをできることは素晴らしい。大学生でもなかなかできない人は多い。

委員

- ・鯛は3枚におろすと全て食べることができる。中学生だけでなく、小学生も、早くから覚えてもらうと良いと思う。3枚おろしを覚えてもらいたいという話があれば教えに行くので、若い人にも伝えていきたい。

会長

- ・宗像ならではの取り組みと思うので、進めてもらいたい。
- ・福岡教育大学の取り組みとして、私も関わっているが18頁に掲載されている、学生サークルで「栽培愛好会」があり、実際に旬の野菜を育てている。食育授業では、110人~120人に対して行っている。その他いかがか。特になければ、次の議題に移りたい。

(2) 健康むなかた 21 及び健康むなかた食育プランについて

○第2次計画最終評価のための市民アンケート調査（案）について

（事務局より資料3説明後）

会長

- ・ここまでのご説明について、質疑応答の時間をもちたい。

委員

- ・多岐にわたり項目があり、回答してもらおうとよい結果が得られると思う。それぞれのコミュニティごとに調査結果を返してもらうことは可能か。

事務局

- ・集計をコミュニティ単位で行う予定だが、回答人数の偏りなどがあつた場合、アンケートだけでは実態を把握することが難しい場合があるので、回答状況や、他のデータ等もあわせて、地区単位でまとめていきたい。市では、日ごろからコミュニティ単位でサポートをしているので、結果を反映させていきたいと考えている。

委員

- ・塩分摂取が地域ごとにどのような状況かなど、アンケートを実施するのであれば、コミュニティごとに返していただきたいという希望がある。
- ・「問14あなたが知っている郷土料理を教えてください」という設問の意図はどういうことか。

事務局

- ・以前は子どものみに聞く質問だったが、大人も知らないという人がいるため、大人も加え

た。市外からの転入者は、宗像独自の郷土料理を認知していない人がいる状況もあり、どれくらいの割合が知っているか知りたい。その結果によっては、普及の仕方も変わってくるので、現状を知るため項目に入れている。

委員

- ・委員の中で「がぜ味噌」を知っている人はいるか。ウニのことを「がぜ」というが、今はウニがいなくなり、地元で採れない。「おきゅうと」の原材料であるおきゅうと草も、鐘崎周辺では採れないので、他市町から買わないと無い。のうさばは、正月でも高いので買うことができない。郷土料理について調べてどうするかが問題。学校給食ではいくつか取り上げられているので、給食で郷土料理を提供するという一方で、子どもは少しずつ知っている。昨年、私はこども大学で小学生におきゅうとの作り方について、子ども達の体験を交えながら伝える機会があったが、ボランティアで原材料から用いて行うことはまれである。調べる意味が何か、目的をもって設問にしてもらいたい。

会長

- ・宗像の食文化を知るという意味では認知度を知ることには意味がある。子どもからの認知度を聞くことはよい。次回、アンケートを行うのであれば、食経験ということも聞いてもらうと深い部分がわかるだろう。

委員

- ・「おきゅうと」は福岡全体の郷土料理であり、「のうさば」や「がぜ味噌」は鐘崎である。
- ・大島が3月のひな祭りのために、「がぜ味噌」を作る。鐘崎はおかずがない時に「がぜ味噌」を作っていた。大人でも「がぜ」を知らない人がいる中で、聞いてどうするのかと思った。

事務局

- ・20歳以上と4歳児の親へのアンケート内容は検討中のため、ご意見を参考に、聞き方を含めて検討し直したい。

委員

- ・そのほか、ご意見がある方はいらっしゃるか。

委員

- ・アンケートは、以前も実施されたのか。

事務局

- ・第2次計画を策定した10年前、中間評価の5年前も同じように行った。

委員

- ・回収率はどのくらいか。

事務局

- ・参考としては、前回は20歳以上の市民で47.5%、4歳児保護者が50.7%であった。

委員

- ・回答率を上げるための工夫は何かあるのか。

事務局

- ・前回は、設問数が多かった。設問数が多いと最初から回答離脱率が高い可能性があるため、

今回質問をかなり絞った。また、若い人が答えやすいようにWEBでのアンケートを導入し、工夫した。

委員

- ・ポイントが付くようなおまけを入れることができないかということで質問した。

委員

- ・景観条例を改正するため、景観計画アンケートが6月にコミュニティ内であった。締め切り間近で時間がないうきに担当課から案内があり、コミュニティ紙にアンケートの回答を促す案内を行った。岬地区は事前に伝えて頂ければ案内の実施は可能である。

会長

- ・無作為抽出で2,000人にアンケートを実施する。若い人の回答率が上がらない中でWEB対応はよいと思う。コミュニティについても協力を得るということもある。
- ・そのほか、ご意見はないか。無ければ次の議題に移りたい。

○第3次宗像市総合計画での健康むなかた21・健康むなかた食育プランイメージ (事務局より資料4説明後)

会長

- ・現時点での構想ということで、説明いただいた。何か質問があればお願いしたい。

委員

- ・達成が難しいと考えられる健診受診率60%という数字は書かないといけないのか。

事務局

- ・国が目標値60%としている。難しいとは感じているが、全国として目指す数字である。

委員

- ・高齢者になると、かかりつけ医に普段から通っている。わざわざ健診に行かなくても、健診に含めてもよいのではないか。レセプトを見るとわかると思うが、後期高齢者医療保険でとっている。そういう率も取り入れてはどうか。

事務局

- ・病院と本人に許可をもらって、特定健診にあたるような場合は、健診の率に加えている。

会長

- ・ほかになければ、次の議題に移りたい。

○今後の予定について (事務局より資料5説明後)

会長

- ・今年度の予定について、ご説明いただいた。何かご質問があればお願いしたい。全体を通して何かご意見、お気づきの点があればお願いしたい。アンケートの修正を含めて、事務局にご一任していただければと思うがよいか。

(異議なし)

会長

- ・それでは、事務局の方で進めていただきたい。

(3) 自殺対策推進計画について

(事務局より資料6-1、2、3、参考資料説明後)

会長

- ・今年度が第1期の最後と言うことで、昨年度までの進捗と、今年度の策定状況についてご説明いただいた。

委員

- ・自殺の状況として18年から22年までの数が出ているが、数字としては大きいわけではないが、それぞれの要因はわかるのだろうか。わかるのであれば、市の重点を置く取組が分かるのではないか。

事務局

- ・要因について市は把握できない。全体像については、国が示している。例えば、30歳男性が過重労働により、うつ状態になり、自死に至るという事例のような示し方をしているが、市としては1件1件の具体的な状況がわからない。市が最も関わりの薄い30代の働く世代の自殺率が高いので、どのようなことが取り組めるのかを考えている。

会長

- ・そのほかいかがか。特になければ、次の議題に移りたい。

(4) 健康づくり関連行事について

(事務局より資料7説明後)

委員

- ・11月10日に水産振興課が荷捌き所の1周年で子どもの魚つかみ取り大会を行う。同日に岬地区のコミュニティが20周年でいろいろなイベントを企画している。ぜひ、宣伝してほしい。

委員

- ・11月3日の日曜日にアスティ祭を実施する予定である。また、公開講座を予定している。HPで紹介する。

事務局

- ・次回が10月頃になっているので、その時にもまたご紹介いただきたい。

会長

- ・最後に全体を通して何かあればお願いしたい。特になければ、事務局に返したい。

以上、議論終了